

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

地域の伝統文化

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

地域の伝統文化 第22号

平成26年11月3日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団
編集：専務理事 佐藤 正 俊
住所：〒160-0023
東京都新宿区西新宿1-9-1
TEL:03-3349-6194
FAX:03-3345-6388
<http://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>



徳島県鳴門市「鳴門大風保存会」(平成26年度助成先)の大風揚げ

平成二十七年 「地域の伝統文化の継承・発展活動」 に対する費用助成希望受付開始

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団では、平成三年六月に財団を設立以来、地域に伝承されてきた「地域の伝統文化の継承・発展活動」とくに後継者の育成に必要な諸活動に対する助成を行なっています。平成二十七年(二十五回目)も以下の内容により公募を行ないます。

詳細につきましては、各都道府県の教育委員会または知事部局の文化関係所管課に送付してあります「平成二十七年助成申込要領」をご覧ください、お申し込みください。
なお、申込要領の詳細は財団のホームページにも掲載しています。

『申込要領の概要』

〔助成対象〕
「地域の民俗芸能」「地域の民俗技術」の継承、とくに後継者育成のための諸活動に努力をしている個人または団体。

〔助成の条件〕
平成二十七年(平成二十八年三月まで)に後継者育成を目的とする諸費用(道具整備費、製作材料費、育成研修費、記録保存費用など)の支出を予定していること。その支出を賄うために、外部からの資金協力が緊急不可欠であること。



大風作り

〔申込手続〕

- 一、提出書類
 - 〔申込書〕(所定用紙)
 - 〔推薦書〕(所定用紙)
 - 〔活動状況がわかる写真〕
 - 〔直近の収支決算書(写)〕
 - 〔参考資料〕等

二、申込に際し、「推薦書」に各都道府県の教育委員会または知事部局の文化関係所管課の推薦・捺印を受けてください。

〔手続日程〕

- 一、申込期限
平成二十七年一月三十日(金)
- 二、結果発表
平成二十七年三月下旬(予定)

〔選考方法手続〕

提出書類に基づき当財団の選考委員会で厳正に審査し、理事会に答申して決定します。

〔助成金額〕

- 一、民俗芸能への助成は、一件につき七〇万円が限度
- 二、民俗技術への助成は、一件につき四〇万円が限度

〔伝統文化分野選考委員〕

- 委員長 岩井宏實 (帝塚山大学名誉教授)
- 委員 天野武 (儀礼文化学会名誉会員)
- 委員 小島美子 (国立歴史民俗博物館名誉教授)
- 委員 田中宣一 (成城大学名誉教授)
- 委員 田村善次郎 (武蔵野美術大学名誉教授)
- 委員 西角井正大 (国立劇場おきなわ運営財団理事)
- 委員 星野紘 (独立行政法人日本芸術文化振興会プログラムディレクター)
- 委員 渡辺行信 (当財団評議員)

〔敬称略〕

II 特別寄稿 II

地震・津波の被災地と原発の被災地

国立歴史民俗博物館名誉教授

小島 美子

(当財団理事・選考委員)

小島美子先生略歴



福島県出身。

東京大学文学部国史学科卒業。

東京藝術大学音楽学部楽理科卒業。

東京藝術大学講師、

国立歴史民俗博物館教授

江戸東京博物館研究員を経て、

現在、国立歴史民俗博物館名誉教授。

専攻は日本音楽史、民俗音楽学。

主な著書に、

『日本の音楽を考える』『歌をなくした

日本人』（以上、音楽之友社）

『日本音楽の古層』（春秋社）

『音楽から見た日本人』（日本放送協会）など多数。

地震・津波の被災地で

東日本大震災が起こった二〇一一年の七月に、私は三人の友人たちとともに、福島・宮城・岩手の被災地をお訪ねした。テレビの画面で見るとは全然違って、津波の大きな広がりとは大変な高さを示す跡に私たちはすっかり打ちのめされてしまった。

宮城県では県の教育委員会の小谷竜介氏の御案内で先ず東松島市をお訪ねした。海に近い大曲浜地区は津波と地盤沈下で住宅はまったく跡形もなく、四カ月も経っているのに、ちょうど田植え前の田んぼのように水が一面に広がっていて、小さい舟が二艘も浮かんでいる有様である。港には大きな船が乗り上げていた。

大曲浜には獅子舞が伝えられているというので、その幹部のお二人から話を伺うことができた。会長は津波で流され、副会長と笛の名人の幹部の方は、お二人共母上を津波に奪われて、沈み込んでおられた。その笛の名人の方は、市役所の納税推進課に勤務しており、おられるため、市民をよく知っているだろうという理由で、三月十一日以来遺体のお世話をされる係にさせられてい

た。それが毎日昼も夜もなく続いたというお話にどんなにかお辛かったろうと私の気持ちも沈み込んだ。その方はその後やはり仕事を休まねばならない程、深くお疲れになったという。

このお二人は獅子舞は毎年正月にやるお祝いの芸能だから、こういう状況では今度の正月はやらない方がいいと思うといわれた。私たちもお気持ちちはよくわかったのだが、むしろこういう時だからこそ、地域の方たちを励ますためになされた方がいいのではないかと遠慮しながらおすすすめした。

その後大曲浜ではみんな相談して正月二日に実施することになったというお知らせに、私共は喜んで伺った。獅子舞の列が大曲浜の港に着いた時には、私共も涙が出そうになったが、副会長も涙を浮かべておられた。普段はこの土地を離れている若者たちも多勢帰ってきたらしく、獅子舞は勢いよく町の中や仮設住宅・老人ホームなどを廻った。仮設住宅では涙をこぼしている方々もあった。獅子舞はこうして町の方々を励ましていったのである。

この獅子舞にはつき物の「浜甚句」という地元の歌を歌手の石川さゆりが覚え、逆に若い人たちに教えたりしたこと、テレビでも報道された。さらに昨年、国立劇場で東北の芸能を紹介する会にも出演したが、この会の随一のすばらしさと、見ている人々は感動していた。あとで楽屋に伺うと新しく会長になられた方は、あの時あなた方がすすめられたから復活できたんだ、と獅子舞の皆さんに私たちを抱きしめんばかりにして紹介された。

その後この獅子舞は東松島市だけでなく、宮城県を代表する芸能といわれる程りっぱに演じつづけておられる。私たちがお訪ねして励ましたことが、

この一か所だけでも本当にお役に立つことができた、私たちもひそかに安堵の胸をなで下ろしたのである。

地震と津波は、それぞれの地域の人々をすべて同じように例外なく襲った。もともと親しくつきあい、共同作業が必要な場合には当然のようにお互いに助け合ってこられた東北の人々は、この大地震の際も見事に助け合っ、全国の人々に「絆」ということを再認識させた。ただ大震災後三年も経つと、それぞれの人の生活や仕事の条件も変わり、絆に甘えているのは、もはや限界のように思われる。政府の復興対策は掛け声ばかりでなく、お金だけでなく実際に工事が進むための条件を整えてほしいと願うばかりである。

原発の被災地で

震災の年度の終り頃になって、文化庁の援助で民俗芸能学会は福島調査団を組織した。私もその一員になって地震や津波だけでなく原発の被害も受けている浜通りに通った。原発の被害の少なかつた南のいわき市や北の相馬市では、まず地震と津波の被害を改めて聞き、家族を失われた方々のお話には胸が痛んだ。しかし、原発の被災地ではまったく次元の違う問題があった。私たちは担当した飯館村については、それぞれ避難されているお宅の二十数か所をお訪ねしたのだが、その範囲は、市町村合併で広がった福島市各地から川俣町などに及んだ。仕事の関係や親類の方からなどのお世話でりっぱな一軒家にいる人、マンションなどの集合住宅に住んでいる人などすべて借り上げ住宅として自らは住居費がかからない人もいれば、いまだに狭い仮設

住宅で、それまで交際のなかった他の地区の人々と暮らしている人々など、生活の条件は人によって大きな差があった。

より大きい問題は、大熊町などのように原発が実際に存在した町は、つねづね東電からいろいろな形で相当な援助をもらっていたのに対して、飯館のように近隣の町村は年間数百万円程度の援助を受けていただけだということである。それにもかかわらず被害は同じように大きく、ずっと不自由な生活を送っているばかりか、今後の生活の見通しもまったくついていない。

原発の問題が始まった頃、東電からも政府からも何の知らせもなく、飯館の女性たちは津波から避難してきた浪江町などの方たちのために、炊き出しをしてお握りをたくさん作ったりしていた。自分たちも逃げなければならぬということはどこからも知らせられず、子どもたちは外で遊ばせても大丈夫と言った大学の先生もいたという。

その中でも危険を察知していち早く逃げた人は、自分たちだけが村から逃げたという気持ちの負い目がいつまでも重たいという。当然逃げる手段を持たなかった人々の気持ちは複雑である。一度避難しても大丈夫という情報で戻ってきた人もいれば、避難場所を転々と十回位移らねばならなかった人もいる。飯館村でもっとも危険な長泥地区の隣の比曾地区では五月二十八日にお別れ会を開いたが、その時には比曾地区の人々のほとんどがまだ比曾にいたという。飯館で全村避難したのは六月である。最も危険な時期に放射線が強く流れた西北の方向に、飯館の人々は詳しい情報もなく、いわばそのまま置かれたことになる。

飯館の方々の避難先は北海道や八丈島のような遠い所まで及んでいるし、こまかいことまでいえば、家庭や仕事の事情で家族が分散せざるを得ない人々もいる。こうしたさまざまな複雑な事情は、人々の感情も傷つける。地震と津波は人々の絆を深め強めたが、原発は人々の絆をいくつにも切ってしまった。

飯館村の社にある綿津見神社の多田宏宮司は、「神様がここにおられる以上、自分は逃げるわけにはいかない」といわれて、放射線量がきわめて高い神社に一人でがんばっておられる。村では祭りもできず、人間関係が複雑に歪んでゆくのを感じておられたように、「原発は神も仏も奪ってしまった」と嘆かれた。

地震と津波の被災地では、いろいろな条件や事情によって、もち論簡単ではないけれど、東松島市の例のように、人々は民俗芸能によって祭を復活し、絆を深め、地域の再建を相談し合っている。被災地には多くのタレントや歌手が見舞いや激励に訪れ、人々を喜ばせているが、それはその時だけのことであって、地域再建の力にはなっていないことを注意して見る必要がある。

これに対して、民俗芸能は長い間の歴史と伝統が人々の心と体に根付いている。祭の笛や太鼓の音を聞けば、不思議に心が動き体が弾む。そしてそれはその地域の人々に共通のものであり、したがって人々の絆は強まり、地区の将来へと気持ちも動く。そういう時に日頃はほとんど何も意識していなかった神社の存在に気が付いたりする。

しかし原発の被災地はそうはいかない。飯館村は昼間に村内に入ることはい

許されるが、夜間は許されない。私たちも昼間は何か村内に入ったが、夜まっ暗な家々が並ぶ村内を車で通ったりとすると不気味である。人々の避難している所は、ばらばらで相談に集まることさえ困難である。飯館村には田植踊や三匹シシ舞、神楽、手踊りなどさまざまな芸能が伝えられており、震災前まで演じられていた。伝承者の多くの方々は、みんなが集って練習することができれば、ぜひやりたいといわれる。しかしその仲間の中には日帰りでできない距離のところに住んでいる人も多く、仕事の都合で夜しか集まらない人も多い。練習する場所、泊る場所、それらの費用、芸能に使う道具や衣装などの確認や修復、その保管など多くの問題があつて手がつけれないのが現状である。つまり祭りも民俗芸能もできないということは、地区の中心になる所がないということであり、



飯館村比曾の三匹シシ舞 撮影：相良富美雄氏

このままの状態がつけば地区の崩壊につながりかねない。村の行政がそれを何より恐れているのがよくわかる。もち論もともと地区の人々の絆が深く「比曾地区史」というすばらしい本も作り上げている比曾地区のように、何とか三匹シシ舞を復活させようとしている所もある。しかしそれには大変なエネルギーが必要である。

私は全国の人々がこの福島県浜通り地方の人々の暮らしが、このあとのように展開してゆくかを注意深く見つけてほしいと思う。それは原発という大きな問題も含めて、一度過疎化せざるを得なかった町村が、その後どのように再生していくかという問題にも連なるからである。福島再生が日本再生の基礎であるというような政治家たちの軽々しいことを信じるわけにはいかない。現実はいよいよに深く重い問題なのである。



福島市大波地区の三匹シシ舞 撮影：相良富美雄氏
(放射線量が非常に高いため子供たちの多くがこの地を離れたので二匹のシシで舞っている例)

Ⅱ現地取材レポートⅡ 北海道檜山郡 厚沢部町 「美和権現獅子舞保存会」様を訪ねて

豊かな森林の町厚沢部町

今回は、北海道の南西部、渡島半島日本海側の厚沢部町美和集落にある『美和権現獅子舞保存会』様をお訪ねしました。『美和権現獅子舞保存会』様は、二〇〇年以上に亘り、東北地方北部から伝わったとされる「目名権現獅子舞」を伝承されています。

厚沢部町は、函館から約六〇キロメートル、車で約一時間半の距離にあり、町の八〇パーセントは森林という緑豊かな町です。また、ポテトの王国でもあり、じゃがいもの二大品種の一つメークインの発祥の地として現在も有数の産地となっています。気候は、北海道でありながら冬でも比較的雪が少なく、夏場も最高気温が二五度から二八度ほどで温暖な地域です。

こうした温暖な気候から、メークインの他にも水稲をはじめ光黒大豆、大根、人参など多彩で高品質な農作物が作付けされています。途中立ち寄った「道の駅」にもこれらの農作物が数多く並んでいました。

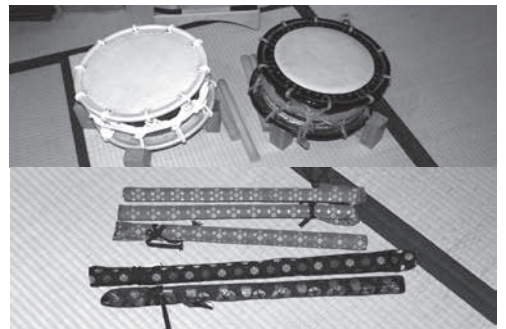
厚沢部という地名は、アイヌ語で「ハチャムベツ」（桜島川の意味）に由来していると言われ、桜島川は「ムクドリが多くいる川」となるようです。そしてその

川が、町の中心部を流れている厚沢部川にあたるようです。

厚沢部町は、約二〇〇〇世帯、人口約四三〇〇人で「下地区」「鶉地区」「館地区」の3地区からなり、その「下地区」の美和集落は、約七〇世帯、人口約一五〇人の規模で、現在の厚沢部町に編入される前は目名村で、厚沢部川の旧名も目名川と呼ばれていました。美和集落のすぐ隣は鱈漁で有名な江差町であり、日本海側から見ると美和集落は厚沢部町の玄関口にあたることとなります。

美和集落の草分けは、天正年間（一五七三〜九三）に北前船に乗って若狭（現在の福井県）から移住してきたと伝えられており、この地域も農業が中心で、厚沢部川流域に水田が広がっています。

取材には、美和八幡神社祭礼が行われる九月五日（金）と六日（土）に合わせて訪問させていただきました。同保存会では当財団の平成二六年度助成金で、締太鼓二個、七本調子の笛三本、三本調子の笛三本を購入されています。当日は祭礼の準備でお忙しいところを、福田寿明会長、会計の久保田彰夫様、最長老の長尾時三郎様に貴重なお話を伺うことができました。



〔助成金で購入された太鼓と笛〕

美和権現獅子舞保存会について

昭和四十年頃から保存会という名称となっておりますが、それ以前は「講中」（祭りに参加したりする信仰者の集まり）という形で、集落全体が構成員となつて天明年間（一七八一〜八八）頃から脈々と伝承されてきていたとのこと。

保存会の役員は、会長一名、書記・会計一名、班長三名で、会員数は三六名で運営されています。役員の任期についての取り決めは特に無いとのこと。また年代別には、四〇歳代三名、五〇歳代一名、残りは六〇歳代以上で、平均年齢は約六五歳とかなり高齢の方々が構成されています。

会員に対しての会費の徴収は特に無く、町からの助成金と祭礼時の祝儀等のみで運営されているとのこと。

獅子舞いの練習は、農閑期の時期に、毎月十五日と三十日に、

夜七時から八時までの約一時間程度行われています。保存会その他の活動としては、正月の門回り、八月お盆の門回り、毎年一月下旬に開催される新春町内鹿子舞交流会への参加があるとのこと。

目名権現獅子舞について

権現舞は、もともと東北地方に分布する山伏神楽・番楽・能舞などに出る「二人立ちの獅子舞」で、『目名権現獅子舞』は、権現舞のみを演目とする在地色の強い舞いで、北東北の山伏神楽の初源的形態を残しています。

獅子舞いの起源は、美和集落の草分けが若狭（福井県）からの移住であるのに対し、ヒバ（アスナロヒノキ）の切り出しのため、東北地方から杣夫（林業従事者）として入植した人たちが、出身地を懐かしみ笛や太鼓を慰めに行っているうちに権現舞が伝わったと言われています。最長老の長尾様のお話では、獅子頭は黒獅子で、これも杣夫が



〔目名権現獅子舞〕

仕事の合間に彫ったものと言われているとのことでした。

獅子舞いの構成は、

獅子舞二人

白狐 一人

笛 二人

小太鼓二人

大太鼓一人

手平鉦一人 となっております。

白狐は舞の中ほどで、舞につかれた獅子を元気づかせる役回りを持っており、白狐が登場する獅子舞は珍しいといわれています。

舞いの途中で神楽歌が入り、お囃子の全員が唄います。舞は、獅子頭を被らずに、頭を振りながら歯をカタカタと打ち鳴らしつつ舞います。

お囃子の軽快なリズムにあわせて①獅子頭を後向き（舞手の正面）にして左回りに一回りします。

②獅子頭を前向きにして一回りします。

③次に神楽歌が入り、歌にあわせて一回りします。

④獅子は舞に疲れて眠ったような仕草をします。

⑤そこへ白狐（白髪・白装束・白狐面）が現れ、手にした杖で獅子にちょっかいを出します。この仕草が狂言的で面白く、見ている人を笑わせます。

⑥獅子は目を覚まして、再び元気に踊りながら一回りします。

⑦獅子の舞手と白狐は、祭壇に拝礼して終了となります。

舞いの途中に入る神楽歌と囃子は次のようなものです。

〔権現神楽歌〕
（二節） 天の岩戸を押し開き

(二節)

(楽器) ヨイヨイ、メロ
ダイー奏楽(続いて) ハー
いざや神楽を参らせる
(楽器) ヨイヨイ、メロ
ダイー奏楽(続いて) ハー

(三節)

神を鎮めて伊勢踊り
(楽器) ヨイヨイ、メロ
ダイー奏楽(続いて) ハー
宮山鶴のさ御幣持て

(四節)

(語り)
悪魔を払うてそれから

(五節)

さ

(六節)

大川楽にさあらたまる
(楽器) ヨイヨイ、メロ
ダイー奏楽(続いて) ハー



[白狐の登場の場面]

美和八幡神社と祭祀

神社の起源は、本殿堂前に奉納されている鰐口に天明七年(一七八七)の銘が彫られており、その頃からと伝えられています。

祭神は、誉田別命(応神天皇)とお稻荷様です。例祭は毎年九月五日が宵宮祭、六日が本祭で、曜日によって変わることはありません。



[美和八幡神社]

事前準備は、宵宮祭の前日に全戸から代表者が出て、旗の取付けや山車の飾り付けを行います。宵宮祭と本祭には、隣の江差町「姥神大神宮」から神主様達が見えて、祝詞やお祓いと共に江差神楽舞も披露されます。

(五日)宵宮祭三日の流れ

午後六時頃までに美和ふれあいセンターに集合し、午後六時になるとふれあいセンターから美和八幡神社に向かいます。この時の行列は、提灯・警護棒・御幣・獅子・神主様・舞子・地域の方々で構成されています。

神社下に到着すると、神社下に配置された山車を神主様がお祓い(魂入れ)をします。そして、神社社殿に入った後、神主様たちが奏でる笛・太鼓で宵宮祭が始まります。

神主様による祝詞・お祓いについて、地域の役員の方々が本殿に玉串を奉奠されます。

その後、神官の方たちによって江差神楽が演じられました。演じられたのは神楽舞の「御幣舞」「巫女舞」「獅子舞」などです。



[宵宮祭の奉納]

最後に「目名権現獅子舞」の奉納があり、宵宮祭は終了します。

(六日)本祭当日の流れ

午前十時頃までに神社社殿に地域の方々集合し、前日同様祝詞・お祓いが行われた後、神社から門回りの行列が発します。

門回りは、二〇名の会員と神主様たちによる行列となります。行列の順序は、塩・警護棒・旗・御幣・お酒鈴・鏡・鉦御幣・獅子・笛・鉦・小太鼓・大太鼓・共米箱(現在は軽トラック)の順に会員の皆さんが分担し、集落内を廻りながら、辻々の所



[門回りの行列]

でお祓いをします。

集落内の各家々では、門回り行列が来ると、お供え用の米をお盆にのせて提供します。また、獅子頭で集落の人々の頭を噛む仕草で、無病息災を祈願します。小さな子供たちが、泣きながら獅子に頭を噛まれる様子が微笑ましく感じられました。

集落内全体を一回りした後には、神社に戻りますが、この時には、集落の人びとが再び社殿に集まってきます。社殿では江差神楽の獅子舞と目名権現獅子舞が奉納されて、十二時頃には本祭の儀が終了します。

午後は、一時半頃から子ども神輿が集落内を1軒々練り歩きます。その後、午後五時頃から山車を引いて集落内を回り、午後九時頃に全ての行事が終了しました。



[山車引いて集落回り]

後継者の育成

集落の全体が高齢化しており、現在の保存会活動の中心は六〇歳から七〇歳とのことです。

今後は、平成三十年頃を目途に世代交代に向けた後継者の育成を計画しておられ、小中学生やその親世代を後継者として育成中とのことです。集落内の唯一の学校である美和小学校の生徒数は五人とのこと、お祭り当日は、近隣から実家に帰ってくる子や孫もいるとはいえ、今後の後継者育成は、大変であることが伺えます。小中学生に教えるも、成人するにつれて函館や札幌などに出ていく方が多いとのことでした。

取材を終えて

祭礼日にあわせての訪問は、日程の都合等もあって難しいのですが、今回は祭礼日に伺うことができ、宵宮祭と本祭の行事内容や獅子舞を拝見することができました。豊かな森に囲まれた自然と、集落の皆さん全員がひとつになつて和気あいあいと行事をすすめられている様子を拝見し、幼かった頃の原風景が蘇ってくるのと同時に、何か温かいものに包まれた感じで幸福な時間になることができました。ありがとうございました。

目名権現獅子舞を引き続き伝承されていかれることは、並々ならぬ苦勞が伴うものと推察いたしますが、集落の皆さんの絆を大切にされながらいつまでも伝承されていかれることをお祈りしております。

(財団事務局長 山内彰)

寄稿

一之瀬高橋の春駒の継承について

山梨県甲州市

一之瀬高橋春駒保存会

会長 楠 信義

(平成二十六年助成先)

一之瀬高橋の春駒の概要

一之瀬高橋の小正月の行事、春駒が伝わる山梨県甲州市塩山一之瀬高橋地区は、甲府盆地の東部に位置する甲州市の北部、標高千メートルを超える山間地にある。一之瀬高橋は、一之瀬・二ノ瀬・三ノ瀬の小集落で構成される「一之瀬」と、その枝村である「落合」と「高橋」を合わせた地域、地名である。春駒はその中で、下組(一之瀬)、上組(二ノ瀬・三ノ瀬)、落合でそれぞれ行われ、高橋にはなかった。春駒は、笛・太鼓・鉦によるお囃子と唄に合わせた駒踊りで構成され、別当(当番幹事)の家から始まり、道祖神場や各戸を巡り踊り、結婚や子供の誕生、新築があった家には「水祝儀」や「弁慶」という特別なお祝いが仕立てられる。

なかった。



伝統行事の役割と進行

準備は年初から始まり、地元では「お十四日」と呼ばれる一年に一度の大きな楽しみであった。一方、責任者である別当は苦勞も多いが、務め上げること、特別な存在として黙認された。また、新嫁や子の披露により村に迎え入れることで、集落内の信頼関係を形成するなど、社会的役割も大きかった。後述するが、集落での春駒は平成元年を最後に一度途絶えることとなり、当時の行事進行は次のとおりである。

・年初

別当宅へ青年会を中心とするメンバーが集まり、昨年の残金の確認や今年の予算について、お紙集め(寄付金集め)について話し合う。

・一月三日(お紙集め)

春駒を行うため、各戸から寄付金が集められる日で、経費が金品でなく、紙によってまかなわれていたことからそう呼ばれた。青年たちが笛・鉦・太鼓を鳴らし家々をめぐる。準備と並行して「お習い」と呼ばれる春駒の厳しい練習も当日まで連夜続く。

めぐる。準備と並行して「お習い」と呼ばれる春駒の厳しい練習も当日まで連夜続く。

・一月十一日(神立て)

別当宅に集まり、神かざりや道具の準備がされる。その後、「神まいり」に行くため衣装や道具を纏い道祖神・社寺におまいりをし、踊りを奉納する。

・一月十四日(道祖神祭り)

夕刻、別当宅に集まり御神酒が振舞われた後、座敷での「踊り」が始まる。サシ(万灯)・提灯を持った別当に続き太鼓・鉦・笛・唄の人々などが列をなしてお囃子を奏でながら道祖神場へ向かう。そこでも御神酒が振舞われ、寄付金や物品寄進の披露がされる。道祖神場で春駒が舞われ、各戸を廻り先々で舞っては道祖神場へ戻り清め、また、各戸へ赴くということを繰り返すため夜を徹して行われ、明け方まで続けられたこともあった。その中で上組と下組の行列が落ち合う場所があり、互いの組が競い合つて春駒を舞う場面を「ぶち合わせ」と地元では呼ぶが、ここで祭りの盛り上がりも最高潮に達する。



結婚や出産など特別なお祝いの事があつた家は「お紙集め」のときに祝儀をはずんでおられ、その返礼には水祝儀が行われ、弁慶が仕立てられ、お札やお祝いの品が贈られた。ひととおりの祭礼行事が終

わると行列で別当宅へ戻り、最後の踊りで露払いが駒を座敷に引き込み終了する。

・一月十五日(別当送り)

組の人々は別当宅に集まり、春駒の道具を解体し、その後、会計報告がされる。翌年の別当をくじ引きで決め、その新別当宅へは道具の一切が運び込まれ管理をすることとなる。

強い絆と想いが伝統を守る

昭和四十七年(一九七二)に春駒の保存と後継者育成のため、一之瀬高橋春駒保存会が発足し活動するも、過疎高齢化により保存会の存続が困難になり、平成元年(一九八九)の小正月を最後に休止状態となった。しかし、「もう一度春駒を！」という一之瀬高橋出身者の強い思いと呼びかけにより、約四十名が賛同し平成二十年(二〇〇八)に保存会を再編し、長きにわたつた休止状態から復活を果たした。現在の一之瀬高橋地区は、人口が五十名に満たないほど過疎化が進行しており、故郷を離れた市街地に居住する人も多い。また、降雪時には道路状況も悪くなるため、地元での道祖神祭りとしての開催は困難であった。そのため、毎年一月十四日に近い休日に、JR塩山駅北口正面に位置する重要文化財「旧高野家住宅」(甘草屋敷・甲州市塩山上於曾)を別当宅および集落個人宅と見立て、また、その付近の広場に道祖神場を仮設して披露を行っている。なお、当時と状況が異なる現在では、行事の進行等に省略や変更が生じている。思えば、当時は今よりもずっと寒く雪も深かった。日本酒の一升瓶は凍りつき、笛からは氷柱が下がった。そんな中、子どもたちは配られたミカンひとつを握りしめ、行列の後をつき歩き、

踊り手は汗をかきほかに舞つた。色紙で作られた飾りの数々が真っ白な雪の中で美しく映えていたことが懐かしい。現在の主会場である甘草屋敷では、会員それぞれが故郷への想いを馳せながら披露しているのが、今こうして春駒ができることを何より嬉しく思う。

今後の継承活動

練習は毎月第三土曜日に行っている。今後の方針として、一人が同じ役だけ担うのではなく、他の役もできるような練習を行いながら、衣装や道具の準備なども一通りできるようにするよう努め、保存会の維持だけでなく伝承の基盤となる体制作りを進めていきたい。子どもの練習については、塾や習い事などでなかなか時間がとりにくい状況ではあるが、なるべく参加してもらい、大人に混ざつて練習をする。披露の際には大人の披露だけでなく、子どもにも積極的に関与させ、なるべく多くの経験を積ませるようになっている。



後継者の確保と育成をはじめ、今後取り組んでいかなければならない課題は多い。地域住民の方々をはじめ教育委員会、県内外の支援者の力をお借りしながら、愛好者を広く募り春駒の輪を大きくし、この伝統芸能を永く後世へと継承していきたい。

寄稿

東大高祭囃子の伝承について

愛知県知多郡武豊町
東大高祭禮保存会

会長 岡井 友晃
(平成二十六年年度助成先)

◇東大高地区の特色

武豊町は知多半島の中央あたり、三河湾側に位置し、JR東海の武豊線の終点駅として、知多半島の経済の動脈の一端を担い榮えてきました。

現在の武豊町は昭和三十年(一九五五)十月に武豊町と富貴村が合併し誕生しましたが、東大高はさらに以前にあった東大高村の名残りを残しており、平成二十二年の国勢調査の町名及び武豊町の住所も、東大高の単独表記になっています。また、武豊町の人口は、四万二千人ですが、このうち、東大高地区は三千二百人(七、六パーセント)と大きい割合を占めています。

◇東大高の伝統行事と保存会の新たな創立

毎年四月の第一日曜日に神事である「春祭り」を行います。春を待ちこがれた住民たちが、村社である「知里付神社」に集い、祭囃子を奉納し、村中安全と五穀豊穡を祈願します。

その春祭りを彩るのが、昭和六十二年(一九八七)五月に町指定有形文化財となった東大高



の山車「知里付車」です。みんな力を合わせ、山車を村中曳き回し、その間も祭囃子を奏で、春の訪れと賑やかさを演出しています。

村の古老によれば「春祭りがいつから始まり、祭囃子がどのような変遷をたどって東大高に伝えられたかは定かではないが、子供の頃の記憶では、八十年前には春祭りが行われ、祭囃子が演奏されていて参加した楽しい思い出がある。その後、伊勢湾台風のあった翌年の昭和三十五年(一九六〇)から一旦中止となった。中止になるまで、毎年春祭りや祭囃子に参加していた。台風災害復興の目処がたった昭和四十七年に東大高地区として春祭りと祭囃子を再開させたが、祭囃子の伝承者たちが、大人だけとなっていたことから、昭和五十四年(一九七九)に後継者育成を目的とした東大

高祭禮保存会「子供囃子」を創立した。」と語ります。

◇保存会の活動状況

子供囃子の加入年齢は、小学校一年生からです。練習の期間は、第一期が夏休みに入る七月二十一日を皮切りに九月の第一日曜日まで、第二期が十月の第一日曜日から十二月の第一日曜日まで、第三期が翌年二月の第一日曜日から四月の春祭り本番までの年間を通して六十日程度、毎回午後六時から八時の活動となります。

そして、小学生・中学生の子供囃子を指導するのは、子供囃子の卒業生たちです。子供囃子を卒業すると二十四歳までは子供囃子OBとして演奏会等でサポートをします。二十五歳から三十八歳までは師匠として子供囃子の練習を指導し、三十九歳から四十三歳までは役員となつて祭禮保存会の運営を行います。

また、自分たちで練習用の笛として塩ビのパイプを細工したり、太鼓の木枠を製作したりと、自分たちの知恵と工夫、そして、熱意をもって取り組んでいます。「自分たちでやれることは、自分たちで」の精神は、発足以降受け継がれています。

◇地域行事への貢献

東大高祭囃子は春祭り以外にも地域に深く密着しています。

毎年一月二日の午前十時より「知里付神社」で行われる厄祓い式において祭囃子を演奏し、厄年の方たちの無病息災を祈願し



ます。午後からは厄年の方たちのご自宅へ訪問し、祭囃子による家内安全の祝い込みをしています。

また、東大高地区にある高齢者介護施設「福寿園」においても、夏の盆踊り大会・冬の忘年会の年2回、祭囃子を披露しています。



そして、武豊町の五年に一度のビックイイベント「ふれあい山車まつり」にも参加しています。

今年十月十二日(日)に「第五回武豊ふれあい山車祭り」が開催されましたが、今回は町制六十周年記念として、今までにならぬ規模で実施されました。

◇「人財」育成

東大高の山車「知里付車」は他の山車のようにからくり人形などを装備していませんが、その代わりに「大太鼓」による迫力ある囃子を毎回演奏しています。このように、祭囃子は東大高地区の住民たちの一年の始まり、そして人生の節目、節目において密接に結びついています。

東大高地区は、武豊町内において一つの村として古くから歴史があり、他地区よりも人口も多く面積も大きくなっています。そして、「古き良き東大高」を地区全体で継続しています。その継続活動の場の一つが「子供囃子」の練習の場となっています。祭囃子の笛や太鼓の技術・技能だけを子供たちに伝承させているわけではありませぬ。祭囃子の練習を通して、東大高の将来を担う子供たちに、歴史ある伝統文化の伝承者としての自覚と資質をも習得させています。

子供囃子・子供囃子OB時代には、師匠たちからみっちり祭囃子の技術を伝承されます。次に、師匠となつてしっかり子供囃子を伝承する立場となります。最後に、役員となつて祭囃子伝承者として、がっちり全体の管理監督を行います。

こうして、東大高は、着実に次世代に受け継がれる「地域の伝統文化としての祭囃子」、そして、その祭囃子を通して育成される「東大高の人財」を今までも育み、これからも育んでいきます。

寄稿 ふるさとの味と 伝統の技を守り続けて

宮崎県日南市
風田製糖組合

代表 平島二三夫
(平成二十六年度助成先)

◇「さとねり」とは

黒砂糖作りの最後の仕上げに竹の棒を釜に入れ、かきまぜ練りあげて行く作業を指す言葉で、今では、風田地区に伝わるサトウキビから黒砂糖を作る伝統製法全体を示す言葉となりました。

◇黒砂糖物語に始まる歴史

宮崎県日南市の風田地区に残る「さとねり」の歴史は、江戸時代、文化二年(一八〇五)に平次郎親子に助けられた一人の武士が、お礼にと一本の竹を差出し、「節ごと切つて畑に挿し植え。毎年繰り返すと増えてきます。これは甘い砂糖の竹で砂糖の製造法は書いておきました。」という黒砂糖物語が始まりました。平次郎親子は、研究を重ね、黒砂糖の製造に成功し、飴肥(おび)藩主に献上しました。

江戸時代後期には飴肥藩が砂糖の生産に乗り出し、昭和五年(一九三〇)頃には県南東地区のサトウキビ生産は宮崎県全体の収穫高の九割を占めていました。私共の風田製糖組合は、昭和五年(一九三〇)に組合員三十九名で設立、昭和五十一年(一九七六)頃には、サトウキビ生産は風田地区に集中しまし

た。自然食ブームで天然の味が受け好評でしたが、需要の減少、組合員の高齢化で、現在はわずか一人になり、組合員以外でサトウキビを生産している一、三人の分を含めても、年間二千キログラム程度を生産している状態です。

◇製糖作業の手順

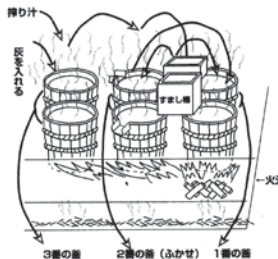
大まかに以下の八つの工程により行います。
一、サトウキビの刈り取り
毎年四月に植え付け、十一月に畑から収穫します。
二、サトウキビ搾り
十二月の初旬に搾り機に入



三、あらどり(三番釜)

搾った汁を「あらどり釜」に移します。煮詰めていくと、表面にアクと不純物が浮いてきます。
篩で表面を掬い、濾し布を敷いたザルに移します。不純物をあらどりした釜に貝灰(貝殻を碎き焼いたもの)をお

玉一杯分入れ沈殿具合を見ます。状態を見ながら微調整し灰の量を決めます。
四、ふかせ(二番釜)
灰を入れた後、汁を「あらどり釜」から「ふかせ釜」に移します。蓋を斜めにかぶせ、沸騰し始めるとアクが噴きこぼれてきます。これを「ふかせ」といい、あらどりで取れなかつた細かい不純物を取り除きます。ふかせが終わると「すまし樽」に汲み上げ、一時間程そのままにしておき、さらに細かい不純物を沈殿させます。



1番から3番の釜が2列に並んでいるので同時に作業ができます。また、3番の釜があいた時点で、次の搾り汁を入れます。この工程を繰り返します。

五、あげ釜(一番釜)

沈殿が終わったら「あげ釜」に移します。「すまし」樽には底から五センチ位のところに蛇口が付けてあり、底に溜まった不純物が出ない仕組みになっています。いったん「あげ釜」に移した汁を半分だけ「ふかせ釜」に戻し、両方の釜で煮詰めていきます。これを「たきわけ」といい、効率よく水分を飛ばすために行います。煮詰めていくと、どうしても「あげ釜」の方の火力が強いのので濃度を均一にするために「あげ釜」から三杯、「ふかせ釜」から五杯というように「くみかえ」という作業を行います。

六、さとねり

泡立っていた気泡がゴトツ、ゴトツ、という感じになり、重なるようになったら仕上げが近づいた状態です。ここからは、竹棒で混ぜる人と火を焚く人との呼吸がとて大切になり、混ぜている人の指示で、焚口(ヒシヤク)一杯の水をかけ釜を冷やします。煮詰まった汁を水張りした茶碗に垂らし、指で固まり具合を確かめます。
最終的に、混ぜたとき飛び散るような感じだった汁が、釜のへりに波打つような感じであったり、波打つようになったら、焚口からホースで水をかけ、瞬間に釜を冷やします。このタイミングが黒砂糖の出来上がり。左右する程で、早いと固まりが悪く、水あめ状になり、逆に、遅いと焦げ付いてしま



七、練り込み

陶器製の「冷やしガメ」に移して冷やします。しばらくすると、表面が固まり内部の

蜜が下がるので、時々混ぜて均一の状態にします。



八、流し込み

一箱一箱丁寧に流し込みます。これらの作業は、一旦釜に火が入ったら、一週間ほど昼夜を問わず終わるまで続けられます。

◇後継者育成と活動状況

「さとねり」は十二月の初旬に行い、唯一この時が後継者を育てる期間になります。現在まで、家族で代々引き継いできていて、これからも継承するために、子供たちに期待したいところです。幸いにも娘婿たちが作業に従事してくれていて、技術を習得しています。

また、市内の小学校では、四年生が「総合的な学習」の一環として、学校の農園にサトウキビを植え、収穫したサトウキビを「さとねり小屋」に持ち込み、製糖作業の一部を体験しています。昨年は日南市で見学者を募り、十数名の方が参加されました。また、毎年、テレビ、新聞等で報道して頂いています。

「さとねり小屋」は、昭和三年(一九二八)に建てられた当時のままで、老朽化が進み大変厳しい状況になっています。今回の助成金で新しい釜と焚き口の修理をすることができました。これからも、ふるさと日南の味と伝統の技を守り続けたいと思っています。

平成3年～26年 都道府県別伝統文化助成先一覧(1)

* 印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
		平成5年度助成(35)		平成3年度助成(29)	
徳島県	猿坂獅子組保存会	北海道	ヤイユウカラの森 *	北海道	石崎奴保存会
愛媛県	八幡丸運営委員会		新十津川町獅子神楽保存会	厚岸かぐら保存会	
高知県	宮谷堂の口あけまつり保存会	青森県	新山権現保存会	紙漉沢獅子踊保存会	
福岡県	四三嶋獅子廻し実行委員会	岩手県	上郷伝統工芸研究会 *	七戸町郷土芸能保存会	
長崎県	館浦須古踊り保存会		赤沢芸能保存会	白浜剣舞保存会	
	大島村盆踊振興会	宮城県	宮崎獅子舞保存会	とよま囃子保存会	
熊本県	中江岩戸神楽保存会子供神楽部会	秋田県	中野七夕保存会	山形県	今利一郎氏(深山和紙製造) *
大分県	重岡岩戸神楽保存会	山形県	堀内伝承文化保存会	群馬県	岩島麻保存会 *
宮崎県	村所神楽保存会	栃木県	山岡和三郎氏(日光下駄) *	東京都	説経節の会
	佐々木寛治郎氏(手漉き和紙) *	群馬県	大神楽獅子舞保存会	秋川歌舞伎保存会	
鹿児島	蓬原熊野神社神舞保存会	埼玉県	明覚郷流鐘馬保存会	神谷地域ビデオ収録委員会	
沖縄県	伊江村民俗芸能保存会	千葉県	野田津久舞保存会	新潟県	越前万歳保存会
	平成7年度助成(43)	神奈川県	大谷芸能保存会	福井県	木曾漆器保存調査会 *
北海道	月浦獅子舞保存会		能登の揚浜式製塩保存会 *	長野県	大井文楽保存会
	釧路アイヌ民芸企業組合 *	福井県	花山行事保存会	岐阜県	東玉垣唐人踊り保存会
青森県	沼崎念仏鶏舞保存会	岐阜県	岐阜県地歌舞伎保存振興協議会	三重県	石打太鼓踊保存会
岩手県	小梨芸能保存会	愛知県	甚目寺説教源氏節人形芝居「もくもく座」	奈良県	大島水門祭保存会
秋田県	戸沢さら保存振興会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会	和歌山	西本里美氏(西田葛の復興) *
	鷹巣町綴り大太鼓上町保存会		二木島祭保存会	島根県	島後久見神楽保持者会
山形県	遊佐のアマハゲ保存会	滋賀県	吉身祭礼保存会	広島県	比和町郷土芸能振興会
	峠ノ山八幡神社弓祭協賛会	兵庫県	福田お幡入れ法伝伝承保存会		金城一國斎後継者池田昭人氏 *
福島県	葛尾三匹獅子保存会	和歌山	土生八幡神社お頭保存会	徳島県	西原上十二神祇神楽保存会
栃木県	大沢田太々神楽保存会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興) *	福岡県	加布里山笠保存会
千葉県	佐原囃子保存会		中野神楽保存会		新多神相撲保存会
新潟県	片野尾歌舞伎保存会	広島県	八千代神楽団	長崎県	大村龍踊り保存会
富山県	八尾町曳山保存会	山口県	鷺の舞保存会	大分県	木牟田子供神楽保存会
福井県	糸崎寺佛舞保存会	徳島県	森藤獅子舞保存会	宮崎県	諸塚神楽保存会
	福谷区大火勢保存会	香川県	中山農村歌舞伎保存会		大人歌舞伎保存会
山梨県	藤木道祖神祭保存会	高知県	佐喜浜八幡宮古式行事保存会		平成4年度助成(34)
長野県	信級中原流太々神楽囃子保存会	福岡県	内野地区老松神社獅子舞保存会	北海道	安浦駒踊り保存会
岐阜県	高雄歌舞伎保存会	長崎県	坂本浮立保存会		長沼町勇獅子舞保存会
三重県	深野和紙保存会 *	熊本県	上井出神社奉納楽保存会	岩手県	妹背牛町獅子舞保存会
滋賀県	岩熊区雅楽保存会	大分県	大行事八幡宮(カハ)踊保存会)		上郷伝統工芸研究会 *
大阪府	能勢町人形浄瑠璃実行委員会	宮崎県	村所神楽保存会		伊藤流行山鹿踊保存会
	堺式手織段通技術保存協会 *	鹿児島	東郷町文弥節人形浄瑠璃保存会		鷹生郷土芸能保存会
兵庫県	熊野神社裸祭り保存会		平成6年度助成(40)	宮城県	金津七夕祭保存会
鳥取県	新田人形浄瑠璃芝居相生文楽	北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会 *	秋田県	大葛金山民俗芸能保存会
島根県	鹿子原の虫送り踊り保存会		鬼鹿松前神楽保存会		前山郷土芸能保存会
	出雲民芸紙工房 *	青森県	鮫神楽保存会	山形県	押切神楽保存会
岡山県	壬生農村歌舞伎保存会	岩手県	上郷伝統工芸研究会 *	神奈川	民具製作技術保存会 *
広島県	常定神楽継承団体「戸山会」		石橋鑑剣舞保存会	山梨県	下部温泉神楽保存会
山口県	別府岩戸神楽舞保存会	宮城県	夏井大梵天神楽保存会	岐阜県	岐南町伏屋獅子舞保存会
徳島県	犬飼農村舞台保存会	秋田県	矢本町塩入神楽保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会
香川県	家の浦二頭獅子舞保存会	山形県	尾去沢からめ節保存会		一色町能楽保存会
愛媛県	大江山保存会	茨城県	北條郷総鎮守獅子冠事務所	兵庫県	三日市オンナイ保存会
高知県	野市町立山神社棒術獅子舞保存会	東京都	柿岡からくり人形保存会		淡河八幡播州音頭踊り保存会
福岡県	平八月祭り保存会	富山県	西川古柳座		池尻神社人形狂言保存会
佐賀県	西塩谷面浮立保存会	石川県	五ヶ種チヨカレ踊り保存会	奈良県	龍口獅子舞保存会
	武雄流鐘馬実行委員会		柏野じよんがら保存会	鳥取県	日南神楽 神光社
長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊保存会	福井県	能登の揚浜式製塩保存会 *	島根県	西本里美氏(西田葛の復興) *
熊本県	久連子古代踊り保存会		だのせ祭り保存会		隠岐いぐり凧保存会 *
大分県	丸山俚楽保存会	山梨県	美和神社太々神楽保存会	広島県	備後かすり学習会 *
宮崎県	今西三段打分太鼓踊保存会	長野県	日吉御殿様祭り保存会		羽佐竹神楽団後援会
鹿児島	入来麓泡瘡踊保存会	岐阜県	白鳥拝殿踊り保存会	山口県	鷺の舞保存会
	佐仁八月踊り保存会	三重県	大淀祇園祭保存会	高知県	船戸花取踊保存会
	中村悦子氏(芙蓉布復元) *	大阪府	貝塚東三吉馬保存会	福岡県	大分獅子保存会
	平成8年度助成(47)	兵庫県	青田神楽保存会	佐賀県	嬉野町今寺面浮立保存会
北海道	留萌岩戸神楽保存会	奈良県	誠語会	長崎県	鷹島町島踊保存会
	(財)アイヌ民族博物館 *	和歌山	真国御田保存クラブ		荻田浮立保存会
青森県	古懸獅子舞保存会	鳥取県	アトリエ・グリソ *	大分県	武多都神楽保存会
岩手県	行山流都鳥鹿踊保存会	島根県	赤塚神楽佐義利保存会	宮崎県	潮嶽神楽保存会
	平組はしご虎舞保存会	広島県	江の川水系漁撈文化研究会 *		榎木白太鼓踊り保存会
宮城県	武鎗鹿踊保存会	山口県	徳地人形浄瑠璃保存会	鹿児島	三島村八朔踊保存会
秋田県	鷹巣町綴り下町大太鼓保存会				
	島田目番楽保存会				

平成3年～26年 都道府県別伝統文化助成先一覧(2)

*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
大分県	国東神楽社	京都府	棚倉孫神社瑞鏡御輿保存会	平成8年度助成(続き)	
宮崎県	綾町宮原地区唐人踊り保存会	京都府	久多の山村生活用具保存会*	山形県	西川一座
鹿児島県	伊崎田和紙保存会*	大阪府	貝塚三夜音頭継承連絡会	福島県	上三坂のやっつき踊り保存会
	鹿児島市中山町下虚無僧踊保存会	兵庫県	播州音頭踊保存連合会	茨城県	あんば囃子保存会
沖縄県	草戸原	奈良県	安堵町なもて踊り保存会	栃木県	宗円獅子舞保存会
	前バル原	和歌山	高芝の獅子舞保存会	群馬県	沼田祇園囃子保存会連合会
平成11年度助成(48)		鳥取県	福栄伝統芸能保存会	千葉県	仁組獅子舞保存会
北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会*	島根県	民谷神楽団	東京都	ふるさと資料館建設推進委員会*
	穂別町アイヌ民族文化保存会	岡山県	大賀島大智明権現保存会	神奈川	仙石原神楽保存会
青森県	龍神社法霊神楽保存会	広島県	江波漕伝馬保存会	新潟県	赤玉文化財保存会
岩手県	山内神楽保存会	徳島県	高川原勇獅子保存会	富山県	八尾町曳山保存会
宮城県	城生野神楽会	香川県	東かがわ市白鳥虎頭舞保存会		時の会・福野の過去・現在・未来*
秋田県	大沢郷椒沢番楽保存会	高知県	土佐の暮らしの文化を守る会	福井県	加茂神社上宮の神事
山形県	越沢自治会	福岡県	松会保存会	山梨県	大久保文化財保存会
福島県	海老根伝統手漣和紙保存会*	佐賀県	飯田面浮立保存会		沢登六角堂切子保存会*
	豊景神社太々神楽保存会	長崎県	若宮稲荷神社 竹ン芸保存会	長野県	成就神楽囃子保存会
茨城県	日枝神社流鏝馬保存会	熊本県	中窪田神楽保存会		阿島傘の会*
栃木県	升塚獅子舞保存会	大分県	野々河内神楽保存会	岐阜県	串原歌舞伎保存会
群馬県	奥平神社獅子舞保存会	宮崎県	高城町穂満坊あげ馬保存会	愛知県	(財)平野町町政会
埼玉県	深作さら獅子舞保存会	鹿児島	徳重大太鼓踊り保存会	三重県	一色町能楽保存会
東京都	江戸消防彩粧會		平原利秋氏(ゴッパン・楽器製作)*		深野和紙保存会*
新潟県	杉野沢民俗芸能保存会	沖縄県	泡瀬京太郎保存会	大阪府	船待神社神楽子供獅子踊り保存会
富山県	福光ちよんがれ保存会		伊波貞子氏(メジャー・織物)*	兵庫県	廣峯神社無形文化財保存協議会
石川県	上井田獅子舞保存会	平成10年度助成(47)		奈良県	南都晃耀会
福井県	美浜町和田区	北海道	穂別町アイヌ民族文化保存会	鳥取県	馬佐良申し上げ祭り保存会
山梨県	中之倉神楽保存会	岩手県	白符荒馬踊保存会	島根県	伝承ホーランエンヤ馬溜漣伝馬保存会
長野県	日野多慶子氏(願法寺の絵解き)	宮城県	丹内金津流鹿躍保存会	岡山県	川上町渡り拍子保存会
三重県	曾原かんこ踊保存会	秋田県	行山流鹿踊保存会	広島県	阿刀神楽保存会
滋賀県	油日神社奴振り太鼓踊り保存会	山形県	山伏神楽保存会	山口県	陶の腰輪踊り保存会
大阪府	吉志部神社どんじ保存会	群馬県	雄物川町岡本新内伝承会	愛媛県	お簾踊保存会
兵庫県	大蔵谷獅子舞保存会	山形県	五城目町民俗芸能保存連絡協議会	高知県	遠・三番双保存会
奈良県	吉野山青年団御田植神事保存会	群馬県	横岡サエの神保存会	福岡県	流鏝馬武徳会
和歌山	小川郷土芸能保存会	山形県	平田さしこの会*	佐賀県	蔵上町民俗芸能保存会
鳥取県	芦津獅子舞保存会	群馬県	猿田彦神社大和神楽保存会	長崎県	鬼木鐘浮立保存会
島根県	御霊会風流保存会	神奈川	大宮神社獅子舞保存会	熊本県	南阿蘇長野岩戸神楽保存会
広島県	幸崎町能地春祭保存会	新潟県	海南神社面神楽保存神楽師会	大分県	天間地区公民館
山口県	数方庭保存会	石川県	湯川五社神社伶人会	宮崎県	広原神楽保存会
徳島県	阿波木偶箱まわし保存会	福井県	木津豊漁太鼓保存会	鹿児島	大の始式保存会
香川県	さぬき農村歌舞伎祇園座保存会		若狭町三宅六齋念仏保存会		柏原区芸能保存会
愛媛県	高知獅子保存会		今庄羽根曾踊保存会	沖縄県	武富旗頭復元実行委員会
	長命講伊勢踊	長野県	今山社松保存会	平成9年度助成(47)	
高知県	土佐歌舞伎伝承会	岐阜県	若松友志会	北海道	雷公神社神楽会
福岡県	今津人形芝居保存会	三重県	栗谷念仏踊り保存会	青森県	田子神楽保存会
佐賀県	嘉瀬の浦獅子浮立保存会	滋賀県	老杉神社頭屋行事保存会	岩手県	行山流都鳥鹿踊保存会
	森鉦浮立保存会	京都府	伊根町立石区	宮城県	嵯峨立神楽保存会
長崎県	西大村浮立保存会		久多の山村生活用具保存会*	秋田県	森岳歌舞伎保存会
熊本県	樅木神楽保存会	大阪府	野間出野秋祭り保存会	山形県	小田島田植踊保存会
	高沢組太鼓踊り保存会	兵庫県	多可町中央公民館播州歌舞伎クラブ	福島県	北部先囃子若龍会
大分県	五馬本村楽保存会	奈良県	祭文音頭保存会	栃木県	芦沼獅子舞保存会
宮崎県	尾八重神楽保存会	和歌山	木本八幡宮の御田祭保存会	群馬県	野須人形芝居保存会あけぼの座
鹿児島	久留平氏(太鼓製作)*	鳥取県	円通寺人形芝居保存会	千葉県	野田津久舞保存会
	津貫中間豊祭太鼓踊り保存会	島根県	出雲大社神代神楽波積支部波積神楽団	神奈川	宮城野獅子舞保存会
	平出水太鼓踊り保存会		今田町内会	新潟県	警女唄ネットワーク
沖縄県	佐敷町津波古獅子蹴跳保存会*	岡山県	横野和紙工業協同組合*		越後弥彦手仕事倶楽部*
	保栄茂自治会	広島県	比和町郷土芸能振興会	富山県	八尾町曳山保存会
平成12年度助成(49)		徳島県	つるぎ町天の岩戸神楽保存会	石川県	小松市歌舞伎愛好会
北海道	掛澗奴保存会	香川県	香翠座デコ芝居保存会	福井県	和久里壬生狂言保存会
青森県	目名神楽会	愛媛県	弓削雨乞踊保存会	長野県	仁科神明宮神楽保存会
岩手県	上郷し踊り保存会	高知県	西畑人形芝居保存会	岐阜県	新楽舎獅子舞保存会
	塚沢早池峰神楽保存会	福岡県	鐘崎盆踊り振興会	静岡県	島田帯祭保存会
宮城県	和潤法印神楽保存会	佐賀県	東真手野舞浮立保存会	愛知県	古出来町神社奉賛会
秋田県	秋田市太平山谷番楽保存会		嬉野町温泉区面浮立保存会	三重県	長太鯨船保存会
山形県	沢渡獅子舞保存会	長崎県	黒丸踊保存会		なすび団扇継承保存会*
福島県	海老根伝統手漣和紙保存会*	熊本県	目丸棒踊り保存会		深野和紙保存会*
	八槻都々古別神楽人會		本町虫追い太鼓を考える会	滋賀県	綿向神社雅楽「楽人座」

平成3年～26年 都道府県別伝統文化助成先一覧(3)

* 印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
長崎県	滑石竜踊保存会	大阪府	樫井西青年団	平成12年度助成(続き)	
熊本県	菜ノ花会*	兵庫県	宗教法人 廣峯神社	茨城県	西金砂神社田楽舞保存会
大分県	九州相良古代踊り下免田保存会	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*	群馬県	平出歌舞伎保存会
宮崎県	佐伯市字目酒利獅子保存会	和歌山	熊野速玉大社祭事保存会	埼玉県	日進餅つき踊り保存会
	下且祇園囃子保存会こども祇園囃子	鳥取県	江波三番叟保存会	神奈川県	NPO法人小田原鋳物研究所*
	行藤町白太鼓踊り保存会	島根県	都神楽団	新潟県	城腰花笠踊保存会
	六日町ヨイマカ保存会	岡山県	地域伝統工芸がませごの会*	富山県	岩瀬まだら保存会
鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*		神根神社獅子舞保存会	山梨県	八朔祭下町屋台保存会
	鮫島健志氏(加世田の鍛冶)*	広島県	警門神楽団	長野県	小菅柱松神事保存会
沖縄県	大浜青年会		郷之崎神楽団	愛知県	大治太鼓保存会
	今泊棒術保存会	山口県	山崎八幡宮 本山神事保存会		能田徳若万歳保存会
平成15年度助成(35)		徳島県	大俣じょうれい踊り保存会	三重県	ゆうづる会*
北海道	剣淵神楽保存会「剣龍会」	愛媛県	河内口説保存会		大江羯鼓踊保存会
青森県	大川原の火流し保存会		野間獅子連中	滋賀県	下笠参弥礼踊り保存会
宮城県	山田大名行列組合	福岡県	浮羽町石垣保存実行委員会*	兵庫県	さいれん坊主保存会
秋田県	潟船保存会*	佐賀県	佐賀錦振興協議会*	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*
	根子番楽保存会		西神野玄蕃一流浮立保存会		田口水分神社奉讃会
山形県	吹浦田楽保存会		千代田中部小学校 高志狂言保存会	鳥取県	竹田さいとりさし少年団
群馬県	行田獅子舞保存会	長崎県	大浦区舟グロウ保存会	島根県	追神頭打供盛団
千葉県	パッパカ獅子舞保存会	熊本県	菜ノ花会*	広島県	養山八幡の吹囃子行事保存会
神奈川県	長谷ささら踊り盆唄保存会		相良吾平阿蘇神社伝統神楽保存会	山口県	柳井縞の会*
石川県	輪島市本町キリコ奉賛会	大分県	産島八幡宮海を渡る祭礼保存会		祝島神舞奉賛会
岐阜県	数河獅子保存会	宮崎県	板井迫神楽保存会	徳島県	坂州若連中
静岡県	富士宮囃子保存会		虚無僧踊保存会	香川県	ひょうげ祭り保存会
愛知県	ちんども祭委員会	鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*	愛媛県	野市町立山獅子舞芸術保存会
三重県	本郷「かんこ」踊り保存会	沖縄県	津波古獅子蹴跳保存会*		川名津神楽保存会
滋賀県	志那中サンヤレ踊り保存会		那覇市首里汀良町獅子舞保存会	高知県	一の宮万歳保存会
京都府	二箇上区	平成14年度助成(48)		福岡県	吉木芸能保存会
	阿良須神社練込保存会	北海道	篠路歌舞伎保存会	佐賀県	立岩浮立保存会
兵庫県	魚吹八幡神社武神祭保存会	青森県	入口青年会		馬渡区鉦浮立保存会
奈良県	尾山萬歳保存会	岩手県	彦部郷土芸能保存会		土井丸浮立保存会
和歌山	椎出の鬼の舞保存会		板用肩怒剣舞保存会	長崎県	大浦区舟グロウ保存会
鳥取県	貴布禰神社獅子舞保存会	宮城県	河南鹿嶋ばやし保存会		嵯峨島オーモンドー保存会
島根県	見々久神楽保持者会		君萱若松神社神楽会	熊本県	福山神楽保存会
広島県	枝の宮田楽団	秋田県	東長野ささら保存会	大分県	放生会委員会
徳島県	つるぎ町一宇雨乞い踊り保存会	山形県	南陽市古代織りの伝統を守る会*		北原人形芝居保存会
愛媛県	佐田岬裂織り保存会*	福島県	白鳥神社太々神楽保存会	宮崎県	伊形花笠踊り保存会
	客天弓祈禱保存会	茨城県	真家みたまおどり保存会	鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*
高知県	狩山豊年踊保存会	栃木県	上横倉の獅子舞保存会		下小原八月踊保存会
福岡県	求菩提山お田植祭保存会	群馬県	千本木龍頭神舞保存会	沖縄県	大川青年会
佐賀県	仁比山神社大御田祭御田舞保存会	埼玉県	沖内囃子保存会		謝名アヤチ獅子保存会
長崎県	上戸石町芸能保存会	千葉県	野田津久舞保存会	平成13年度助成(50)	
熊本県	西安寺神楽保存会	東京都	手作り絹研究会・多摩織部会*	北海道	ペーパン福島踊り保存会
大分県	大恩文化財愛護少年団	神奈川県	相模里神楽垣澤社中	青森県	高館駒踊り保存会
宮崎県	唐瀬子供神楽会	富山県	諏訪神社獅子舞保存会	岩手県	小袖漁撈唄保存会
鹿児島	田之浦山宮神社神楽保存会	福井県	じじぐれ祭保存会		湯屋神楽保存会
沖縄県	いしゃなぎら青年会	山梨県	下市之瀬獅子舞保存会	宮城県	筆甫神楽保存会
平成16年度助成(36)			表門神社神楽保存会	秋田県	八沢木獅子舞保存会
青森県	片岸えんぶり組	長野県	木賊獅子保存会		福米沢送り盆保存会
岩手県	田東剣舞保存会	岐阜県	有道しゃくし保存会*	山形県	八ッ沼大名行列組合
宮城県	廿一田植踊保存会	愛知県	伝承知多木綿つものき*	福島県	両原早乙女踊り保存会
秋田県	黒川番楽保存会		石上げ祭伝承保存会	茨城県	東金砂神社田楽舞保存会
山形県	羽黒山松例祭若者衆	三重県	野口御神楽保存会	栃木県	大沢田太々神楽保存会
福島県	昭和村からむし織後継者 →育成事業実行委員会*	滋賀県	上砥山田楽踊保存会	群馬県	上泉獅子舞保存会
栃木県	尾ざく獅子舞保存会	兵庫県	南光子ども歌舞伎育成会	神奈川県	長安寺六字誂念仏講中
群馬県	赤城町古典芸能保存会	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*	新潟県	二田物部神社神楽舞保存会
千葉県	本納滝之谷獅子舞保存会	和歌山	藤白の獅子舞保存会	福井県	今庄羽根曾踊保存会
東京都	むさしのばやし保存会	島根県	南本通吉兆行事保存推進協議会	長野県	湯原神社式三番保存会
神奈川県	三増獅子舞保存会	岡山県	白明会*		外倉獅子舞保存会
富山県	宮崎神楽保存会	広島県	大朝飾り牛保存会	岐阜県	高桑太鼓保存会
長野県	和田中神社太神楽保存会	山口県	徳佐はやしだ保存会	愛知県	金沢歌舞伎
	上駒沢祭典保存会	愛媛県	井原圭子氏(和紙用簀製作)*	三重県	なすび団扇継承保存会*
愛知県	向山神楽獅子保存会	福岡県	水田天満宮稚児風流保存会		「てんてん」保存会
三重県	水沢お諏訪おどり保存会	佐賀県	戸ヶ里浮立保存会	滋賀県	古高鼓踊り保存会
			祖子分面浮立保存会	京都府	天満神社相撲保存会

平成3年～26年 都道府県別伝統文化助成先一覧(4)

*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
熊本県	大浦獅子保存会	秋田県	大湯大太鼓保存会	平成16年度助成(続き)	
熊本県	柳別府太鼓踊り保存会	福島県	会津万歳安佐野保存会	滋賀県	ずいき祭保存会
大分県	深山流朝地神楽保存会	茨城県	片野排福ばやし保存会	京都府	丹後藤布振興会*
宮崎県	郷之原芸能協賛会	栃木県	興野ささら獅子舞保存会	大阪府	大阪太鼓文化研究会*
鹿児島	鮫島健志氏(加世田の鍛冶)*	群馬県	泉沢町郷土芸能保存会	兵庫県	小五月祭(棹の歌)保存会
	如竹踊り保存会	千葉県	万作踊り松戸保存会	鳥取県	賀露神社麒麟獅子舞保存会
沖縄県	古見民俗芸能保存会	東京都	美山町鯨獅子舞保存会	島根県	須佐神楽保存会
平成20年度助成(40)		神奈川	あつぎひがし座	広島県	小原大元神楽 小原神楽団
北海道	寿都松前神楽保存会	石川県	加賀万歳保存会		南方の万灯保存会
青森県	上十川獅子踊り保存会	福井県	舟寄踊り保存会	香川県	肥土山農村歌舞伎保存会
岩手県	都島田植踊り保存会	愛知県	きねこさ祭保存会	愛媛県	豊茂五ッ鹿踊り保存会
宮城県	日高見流浅部法印神楽保存会	滋賀県	椿神社流鏝馬保存会	高知県	西諸木花取踊り保存会
秋田県	鳥海山小滝舞保存会	大阪府	大阪欄間工芸協同組合*	佐賀県	広瀬浮立保存会
山形県	舟渡獅子踊り保存会	兵庫県	仁色長持保存会	長崎県	太田尾地藏祭飾そうめん保存会*
福島県	北萱浜神楽愛好会	和歌山	糸我郷土伝統芸能保存会		戸根浮立保存会
栃木県	下鉢石町自治会	鳥取県	美成地区	熊本県	加勢川開発研究会合せ打保存会*
	宝積寺白鬚神社雅楽部	島根県	野石谷伝統芸能保存会		下里白太鼓踊り保存会
群馬県	椿名神社太々神楽保存会	広島県	諸木郷土芸能保存会	大分県	荻神社俵楽
埼玉県	脚折雨乞行事保存会	徳島県	多田健二氏(阿波木偶人形制作)*	宮崎県	太郎坊べぶ踊り保存会
千葉県	岩沼の獅子舞保存会	香川県	香翠座デコ芝居保存会	鹿児島	入来神舞保存会
東京都	田無ばやし保存会	福岡県	豊前感応楽保存会	沖縄県	新川青年会
神奈川	海南神社行道面保存会	佐賀県	西牟田区子供みこし・鉦浮立保存会	平成17年度助成(37)	
新潟県	他門神楽保存会	長崎県	平島ナーマイド一保存会	青森県	青森ねぶた正調囃子保存会
	半田神社神楽舞保存会		ききつ船津ペーロン保存会	岩手県	大ヶ生山伏神楽保存会
富山県	八口諏訪社獅子舞保存会	熊本県	竹迫観音祭保存会下町分会		大船渡喜多会
山梨県	大垣外獅子舞保存会		栖本町郷土芸能保存会	宮城県	新城の田植踊り保存会
岐阜県	美濃歌舞伎保存会	大分県	保戸島伝統芸能保存会	秋田県	赤田獅子舞保存会
静岡県	掛塚屋台囃子保存会	宮崎県	熊襲踊り保存会	山形県	蔵岡延年の舞保存会
愛知県	六ツ師獅子舞保存会		細野一区輪太鼓踊り保存会	福島県	館早乙女踊り保存会
三重県	生桑町長松神社鏡餅奉納会	鹿児島	小島棒踊り保存会		木目沢三匹獅子保存会
	曾原かんこ踊り保存会	沖縄県	中間棒踊り保存会	茨城県	日立郷土芸能保存会
滋賀県	篠田の火花保存会*		中城村字津覇伝統芸能保存会	栃木県	三本木獅子舞保存会
大阪府	だいがく保存会	平成19年度助成(39)		埼玉県	辻の獅子舞保存会
奈良県	川西町保田自治会	北海道	寿都松前神楽保存会	千葉県	岩沼の獅子舞保存会
和歌山	ねんねこ祭保存会	青森県	大平大神楽		中野獅子保存会
島根県	岩野原獅子舞保存会	岩手県	法領田獅子踊り保存会		幸田羯鼓舞保存会
岡山県	福石神楽団	宮城県	羽山神楽保存会	東京都	矢部八幡宮獅子舞保存会
広島県	名字獅子舞保存会	秋田県	浪板虎舞保存会	神奈川	田村ばやし保存会
	五日市芸能保存会	山形県	鳥海山日立舞横岡番楽保存会	福井県	蔵生区自治会
徳島県	後山からくり襖絵保存会	山形県	幸生区・三地区契約会	山梨県	高尾山穂見神社神楽保存会
香川県	流水灌頂法要保存会	福島県	浮島神社太々神楽保存会	長野県	熊野神社祭囃子保存会
福岡県	下町獅子山保存会		糠塚三匹獅子保存会		桐原獅子舞保存会
長崎県	上原浮立保存会	栃木県	芦沼獅子舞保存会	愛知県	牧野嶋念仏踊り保存会
熊本県	川島神楽連		山本政史氏(日光下駄製作)*	三重県	白塚町通夜講
	都呂々獅子舞太鼓踊り保存会	群馬県	貝沢西組獅子舞保存会	滋賀県	渋川花踊り保存会
宮崎県	入下神楽保存会	埼玉県	下日出谷餅搗踊り保存会	兵庫県	住吉神社水無月祭打込囃子保存会
鹿児島	前野田植唄民謡保存会	千葉県	八幡神社の獅子舞保存会	奈良県	田原地区伝統芸能保存会
沖縄県	船浮民俗芸能保存会	東京都	星竹囃子連	和歌山	春駒保存会
平成21年度助成(42)		新潟県	内島見神楽保存会	島根県	矢上田植ばやし保存会
北海道	大船南部神楽保存会	石川県	二所宮獅子舞保存会	広島県	羽佐竹神楽団後援会
青森県	乳井獅子保存会	福井県	長畝日向神楽保存会	福岡県	八女市土橋八幡宮神幸行事保存会
岩手県	四ツ堰鹿子踊り保存会	山梨県	藤木道祖神祭保存会	佐賀県	川内浮立保存会
	村崎野大乘神楽保存会	長野県	山新田大神楽保存育成会		三部区
宮城県	中新田火伏せの虎舞保存会	愛知県	名古屋港筏師一本乗り保存会	長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊り保存会
秋田県	梅内郷土芸能保存会	三重県	矢浜神楽保存会	熊本県	宝川内志賀段七踊り保存会
福島県	渡戸高野・鯨組	滋賀県	大原学区豊年太鼓踊り保存会	大分県	田原獅子保存会
栃木県	文挟流手岡獅子舞講中	京都府	田山花踊り保存会	宮崎県	川内棒踊り保存会
群馬県	新井八幡宮獅子舞保存会	兵庫県	小野原住吉神社神舞保存会	鹿児島	久見崎盆踊り「想夫恋」保存会
埼玉県	北袋囃子連	岡山県	粟井春日歌舞伎保存会	沖縄県	天願獅子舞保存会
千葉県	不入斗同志会	広島県	長尾神社湯立神楽保存会	平成18年度助成(37)	
東京都	代々木囃子保存会	山口県	藤生神楽保存会	北海道	元更別大国神社石見神楽保存会
	山田獅子舞保存会	徳島県	上八万伝統文化を守る会	青森県	斗内獅子舞保存会
神奈川	小向獅子舞保存会	香川県	賀茂神社長床神事保存会	岩手県	豊沢大念佛剣舞保存会
新潟県	羽森神社神楽舞保存会	愛媛県	かぶと踊り保存会		生出神楽保存会
富山県	棚山獅子舞保存会	高知県	東洋町流鏝馬保存協議会	宮城県	大曲法印神楽保存会

平成3年～26年 都道府県別伝統文化助成先一覧(5)

* 印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
				平成21年度助成(続き)	
栃木県	鹿島神社郷土芸能保存会	熊本県	栖本町郷土芸能保存会	石川県	門前とどろ保存会
群馬県	天命鑄物伝承保存会*	大分県	新町自治会	長野県	町区太々神楽実行委員会
埼玉県	白瀧神社太々神楽保存会	宮崎県	高木郷土芸能保存会		高岡道祖神日待占祭保存会
千葉県	下小坂獅子舞保存会		都城市高城町桜木あげ馬保存会	静岡県	笹間神楽保存会
東京都	飯岡ばやし 日の出会	沖縄県	鳩間民俗芸能保存会	愛知県	日下部太鼓保存会
新潟県	高井戸囃子保存会	平成23年度助成(42)		三重県	大江羯鼓踊保存会
	大谷地和紙保存会*	北海道	糠内獅子舞保存会	滋賀県	中堀町自治会孔明祈水山保存会
富山県	蔵王稚児舞の会	青森県	同心町熊野神社神楽連	京都府	質美下村区文化財保存委員会
石川県	加茂神社神事伝承会	岩手県	外山神楽保存会	兵庫県	日吉神社龍王の舞及び祝詞太鼓保存会
福井県	向粟崎悪魔払い保存会	宮城県	熊野堂神楽・舞楽・十二神鹿踊保存会		福住下自治会
山梨県	多賀区獅子保存会	秋田県	福嶋サイサイ囃子保存会	奈良県	八島町六斎念仏講
長野県	中之倉神楽保存会	山形県	若宮八幡神社太々神楽保存会	和歌山	南道奴行列保存会
岐阜県	湯原神社式三番保存会	福島県	杉沢愛宕神社三匹獅子保存会	鳥取県	江波三番愛保存会
愛知県	河鹿神社賀喜踊保存会	群馬県	美茂呂町屋台囃子保存会	島根県	八人神楽団
	万足平を考える会*	埼玉県	白久串人形芝居保存会		亀山将氏(足踏み水車の修復)*
	村木神社おまんこ祭り保存会	千葉県	旅人自治会	岡山県	宇甘神社獅子舞保存会
三重県	戸木東組かんこ踊り保存会	東京都	鹿島流獅子舞引田保存会	広島県	富士神楽団
滋賀県	小野町太鼓踊保存会		諏訪神社崇敬会	徳島県	赤松煙火保存会*
大阪府	深江菅細工保存会*	神奈川	川名屋台ばやし保存会	香川県	和田雨乞踊保存会
兵庫県	西町獅子舞保存会	新潟県	天神林天満宮伶人会	福岡県	上久原白山宮獅子舞保存会
奈良県	田原地区伝統芸能保存会	富山県	田島自治会	佐賀県	自然と暮らしを考える研究会*
和歌山	堅田祭保存会	福井県	宇波西神社神事芸能保存会	長崎県	権常寺浮立保存会
岡山県	大浦神社	山梨県	山梨国神社舞子	熊本県	竹迫観音祭保存会
広島県	御調八幡宮花の踊り保存会	長野県	NPO法人小谷山村留学育成会*		黒辺田野白太鼓踊保存会
山口県	上野神楽舞保存会	岐阜県	小野八幡神社祭礼運営委員会	鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*
徳島県	森藤獅子舞保存会	静岡県	東光寺猿舞保存会	沖縄県	黒島民俗芸能保存会
香川県	安田おどり保存会	愛知県	中之切奉賛会	平成22年度助成(42)	
愛媛県	井原圭子氏(和紙用簀製作)*	三重県	立神自治会	青森県	二ツ森神楽芸能保存会
高知県	泉川長者花鳥踊り保存会	京都府	周枳民芸保存会三番叟組	岩手県	門中組振興会
福岡県	植木の三申踊保存会	大阪府	野崎第一地車保存会	宮城県	佐藤明彦氏(堤人形製作)*
佐賀県	鳥海浮立保存会	兵庫県	淡路人形浄瑠璃青年研究会	秋田県	冬師番楽保存会
長崎県	森山本村郷土芸能保存会	奈良県	神波多神社獅子神楽保存会	山形県	西袋獅子踊保存会
熊本県	東浦白太鼓踊り保存会	島根県	出雲國奏楽錬成会	福島県	菅波伝統文化継承会
大分県	北原人形芝居保存会	広島県	大朝飾り牛保存会	茨城県	あおき囃子連
宮崎県	不土野芸能保存会	山口県	お手廻り保存会	栃木県	河井獅子舞保存会
鹿児島	土踊保存会	徳島県	大谷郷土文化保存会	群馬県	木崎音頭保存会
	童子八月踊り研究会	香川県	七宝古流本村夫婦獅子舞保存会	埼玉県	三若会
沖縄県	豊見城市 高安自治会	愛媛県	佐方獅子保存会		柏合獅子舞保存会
平成25年度助成(42)		高知県	大利太刀踊保存会	千葉県	熊野神社神楽保存会
青森県	上川目神楽保存会	福岡県	ぜんでこ踊り保存会		上本郷獅子講中
岩手県	大石虎舞組		平八月祭り保存会	東京都	樫立踊り保存会
	二子築館神楽保存会	佐賀県	南片白区浮立保存会	新潟県	川根谷内獅子保存会
宮城県	鳥屋ヶ崎八幡神社獅子舞保存会	長崎県	馬場本浮立保存会	富山県	福島青年親交会
秋田県	釜ヶ台番楽保存会	熊本県	小屋川内獅子舞保存会	石川県	小松尾小屋鶯保存会
山形県	中獅子踊り保存会	大分県	重岡岩戸神楽保存会	長野県	玉依比賣命神社
福島県	和田神社太々神楽保存会	宮崎県	花木地区郷土芸能あげ馬保存会	岐阜県	加納まちづくり会(和傘製作)*
茨城県	久保田のおはやし保存会	鹿児島	西上太鼓踊り保存会	静岡県	巖室神社鎮火祭保存会
栃木県	万町一丁目東自治会	沖縄県	伊平屋村青年団協議会	愛知県	有松天満社文嶺講
群馬県	新田赤堀獅子舞保存会	平成24年度助成(54)		三重県	牛蒡祭保存会
埼玉県	北本宿囃子連	青森県	五戸えんぶり組	滋賀県	志賀神社氏子総代
	神明社神楽保存会	岩手県	門中組振興会	大阪府	三ツ松明土行念仏保存会
千葉県	関下囃子		片岸虎舞保存会	兵庫県	北野まつり保存会
東京都	檜原村春日神社御餉神事保存会		山岸さんさ踊り保存会	奈良県	惣谷狂言保存会
新潟県	長沢祭典実行委員会	宮城県	小室契約会	鳥取県	向垣神社祭礼行事保存会
富山県	打出青壮年部		浪板虎舞保存会	島根県	御霊会風流保存会
石川県	串町町内会		磯草虎舞保存会	岡山県	佐方子供吉備神楽伝承教室
福井県	闇見神社例祭神事保存会		大谷大漁唄い込み保存会	広島県	おおたけ手すき和紙保存会*
山梨県	新町お囃子保存会		長塩谷南部神楽保存会	山口県	山代白羽神楽保存会
岐阜県	NPO法人グリーンウッドワーク協会・竹部会*		大室南部神楽保存会	徳島県	橘だんじり祭り獅子組
愛知県	愛知・半田・板山万歳保存会		相川南部神楽保存会	愛媛県	北方獅子舞保存会
三重県	東玉垣唐人踊り保存会	有限会社	仙台堆朱製作所*	高知県	シットロト踊り保存会
滋賀県	鍋冠祭保存会	秋田県	秋田万歳保存会	福岡県	鷹尾神社伝統芸能文化保存維持会
大阪府	御領地車保存会	山形県	大谷神楽保存会	佐賀県	母ヶ浦面浮立保存会
兵庫県	羽淵獅子舞保存会	福島県	川原田神楽保存会	長崎県	平島盆踊り保存会
奈良県	吐山太鼓踊り保存会	福島県	新館太々神楽保存会		

助成先	
平成25年度助成(続き)	
和歌山	三船踊り保存会
島根県	美保神社神事奉賛会
岡山県	佐方ひがさき踊り保存会
広島県	錦城神楽団
山口県	滝坂神楽舞保存会
徳島県	宿毛谷獅子舞保存会
愛媛県	金栄会
高知県	四ツ白武士踊り会
福岡県	安武楽保存会
	豊前小倉織研究会*
佐賀県	執行分浮立保存会
長崎県	長崎明清楽保存会
熊本県	市房山神宮里宮神社
	長坂なれなれなすび踊り保存会
宮崎県	中野神社神楽保存会
鹿児島	黒潮太鼓
平成26年度助成(44)	
北海道	美和権現獅子舞保存会
青森県	目名神楽会
岩手県	の組菱和会
宮城県	白浜自治会(旧白浜契約会)
山形県	舟渡獅子踊り保存会
福島県	松岡若連
栃木県	日光囃子保存会
群馬県	津久田人形操作伝承委員会
埼玉県	今成地区山車・囃子保存会
	赤沼民俗文化財保存会
	久長元耕地獅子舞保存会
千葉県	道庭獅子連保存会
東京都	八幡囃子保存会
神奈川県	台祭囃子保存会
新潟県	水沢伝統芸能保存会
富山県	加茂神社神事伝承会
石川県	内灘町宮坂区
福井県	鈴鹿区太太鼓保存会
山梨県	一之瀬高橋春駒保存会
長野県	根神社式三番叟保存会
岐阜県	綾野第4自治会綾野祭囃子保存会
愛知県	上名和祭りばやし保存会
	東大高祭禮保存会
滋賀県	下笠参弥礼踊り保存会
京都府	出雲風流花踊り保存会
	NPO法人丹波漆*
大阪府	延喜式内社 岐尼神社
和歌山	池田 秀孝氏*
鳥取県	服部神社獅子舞保存会
島根県	玉造調理師会
広島県	山波神楽団
山口県	住吉神社お船謡保存会
徳島県	鳴門大風保存会
香川県	石切唄保存会
愛媛県	掛木天満宮「牛鬼」保存会
高知県	御田八幡宮秋の例祭保存会
福岡県	柳川市立柳河小学校
	→特別クラブ「子どもどろつくどん」
佐賀県	川上鉦浮立保存会
長崎県	東上面浮立保存会
熊本県	熊本新町獅子保存会
宮崎県	細江神楽保存会
	風田製糖組合*
鹿児島	花尾太鼓踊り保存会
沖縄県	勢理客区
累計助成件数1,007件	

財団案内

財団の目的

明治安田クオリティオブライフ文化財団(理事長:大島雄次)は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成などをおこない、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

財団の概要

【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 The MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年(1991年)6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	15億2,000万円
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・音楽分野における若手芸術家の人材育成に対する助成・民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成・芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	<ul style="list-style-type: none">○クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成に対する助成<ul style="list-style-type: none">・海外における音楽研修に対する助成・国内音楽学生に対する奨学援助○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成<ul style="list-style-type: none">・地域の民俗芸能(含、民俗行事、民俗音楽)の保存維持、後継者育成のための助成・地域の民俗技術(含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸)の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況(平成26年11月現在) <ul style="list-style-type: none">・音楽分野 440人 81,530万円・伝統文化分野 1,007件 53,697万円
主な出捐企業	明治安田生命保険相互会社